

国語

(1～14ページ)

注意

- 1 試験開始の合図があるまで、問題用紙を開いてはいけません。
- 2 解答は解答用紙にマークしなさい。
ただし、使用しない解答欄があります。
- 3 解答用紙に受験番号と氏名を記入しなさい。
- 4 試験時間は六〇分です。
- 5 試験開始後、問題用紙に不備(ページのふぞろい・印刷不鮮明など)があったら申し出なさい。
- 6 問題の内容についての質問には、いつさい応じられません。

解答用紙の受験番号欄記入例

数字の位置	受 験 番 号				
	万	千	百	十	一
0	2	/	9	0	/
1	0	0	0	0	0
2	1	0	1	1	0
3	0	2	2	2	2
4	3	3	3	3	3
5	4	4	4	4	4
6	5	5	5	5	5
7	6	6	6	6	6
8	7	7	7	7	7
9	8	8	8	8	8
	9	9	0	9	9

数字の位置に注意してマークしなさい

マーク式解答欄記入上の注意

1. 解答は、HBの黒鉛筆を使用して丁寧にマークしなさい。
《マーク例》
良い例 ●
悪い例 ◊ ○ × ◐ ◑
2. 訂正する場合は、プラスチック消しゴムで、きれいにマークを消し取りなさい。
3. 所定の記入欄以外には、何も記入してはいけません。
4. 解答用紙を汚したり、折り曲げたりしてはいけません。

I 次の問題文を読み、後の問いに答えなさい。

文学はたしかに倫理的な問題、善と悪とその判断の問題と関係がある。人間の喜びや悲しみを描くものが、何が正しいことであり、何が正しくないことであるかについての判断を持たず、かつその判断を述べるものが出来なければ、その作家の仕事は十分なものでなく、かつその人は文学者の名に値しない。この通念は輪郭がぼんやりしたものであるけれども、その中核には動かしがたい強いものがある。そしてそのぼんやりした輪郭のまま、現代の大多数の作家、詩人、批評家、また一般読者に確信されている。

その特色の故に、文学は絵や音楽と区別される、と言われている。絵は文学に較べて説話的要素、従って倫理的関係の少ないものであるが故に、文学よりも純粋な芸術性を多く持っている、とも言われる。更に音楽は、説話性や具体性を帯びることがもつと少ないから、具体的、現世的な倫理判断の問題からはもつと離れていて、「芸術としてもつとも純粋である」と考えられている。実際は音楽ですら十分に倫理と関係があるのだが、「音楽と倫理」ということを書いた論文はほとんど存在しないだろう。そして「音楽の美」、「音楽の秩序」などということが論議の対象となりやすい。

ところが、「文学と美」「文学の芸術性」などを論ずることは、今日では文学論として十分な広がりや深さを持つたものにならないと考えられている。「文学と倫理」とか「文学と政治」とか「文学と思想」という題を設定して考える方が、文学の根本問題に触れ得る、という通念が行われている。この通念は、二つの出口をもつて、現代の文学に交渉している。一つは創作面であって、社会批評、文明批評をじかに伴う文学作品が、そうでないものよりも、より妥当なものとしてされる傾向を作りつつある。特に政治的な緊張の強い時代において

は、作品がその時代の政治的な判断と現実的に相俟い相触れることが、文学作品の第一の、そして必然の要件である、と作家は考えがちになる。その結果作品は、対外的には社会批評をイットするものを書き、対内的には告白であり、自己批判であるべきだと考え、それを創作の動機とするようになる。その例は、日本では大正末年以来マルクシズムの政治的判断とそれに随伴した多くの作家の作品において見ることが出来る。その出口の第二は、文芸批評の面に現れる。それは、歴史の推移は、非合理的な思想や制度から合理的な思想や制度への推移を中心にして判断されるから、その型をそのまま文芸作品の批評基準として持つて来ることとなる。そして、ある作品がその時の社会状態、政治状態とどのように結びつき、どのように善への願いと、悪への抵抗とを表現したかということを研究して、その作品の位置づけ、価値づけを行うことになる。これは現在の文芸批評に、極めて一般的に見られる所である。

私自身、こういう風に書きながら、この通念の二種の現れを、そのまま否定するのではない。むしろ、単なる風俗や世態の描写を小説だと考えたり、また真実なる告白を詩だと考えて、それ以上に作家が時代と自己の作品について反省を持たないことは、盲目的な不十分な創作態度であると思う。また作品の技巧の比較や作家に才能があるかないかなどを美文調で述べることをもつて批評だと考えるディレッタントイズムは批評と言われ得ないと考える。

しかし前記のような、社会や政治の秩序と直接に触れ合うことをもつて、そのまま創作と批評の基準にすることが危険であることは、誰もが感じていることである。極めて優秀なまた進歩的な社会批評を伴った報道記事も、極めて率直正確な自己告白も、芸術作品としての文学作品を作るものとはならないからである。日本の自然主義小説は封建社会の意識と戦った人々のツウセツな告白であった、と言っても、その作品自体の芸術としての成り立ちの説明とはなら

ない。単^dにその作品または作家がはめ込まれていた社会のある層の特質と、そのはめ込まれ方を説明するブレンケン^ウとしてその作品が扱われているに過ぎないのである。そういう批評の次に生まれる錯誤は、ある青年が自己のはめ込まれている環境を正義感に駆られて、露骨に描けば、芸術としての作品が出来るという錯覚を持って、作家を志すということ等である。その作品が、考え方はよいにしても下手だから文学作品にならない、と批評された時、初めてその青年は「うまいこと」や「巧妙であること」が、正義や正確さよりも必要だとはどういう事だろうと考え直すであろう。そして、「巧妙さ」、「老練^ウさ」などということが内緒に、賄賂のようにあの古風な職人的反社会的な作家たちから前衛的戦士的な作家まで一貫して、こそこそと内緒ごととして手渡しされているように感じ、芸術そのものに不正な、忌まわしい感じを持ち、作家たることが古風な芸人意識への妥協なくして考えられないことに腹を立てるであろう。一般に、現代では、作家の技巧というものは、芸人、職人的作家と戦士的前衛作家とに共通なものであり、両者を無差別にする危険のあるものとして、知的な作家や社会批評的作家の間では、口にすべからざる、隠し所的な、しかも必要なものとされ、Xと論ぜられない傾向を強く持っている。

しかもなお私はこの文の初めに書いたように、文学作品が倫理の問題、善と悪の判断に深くかわりのあることを信じて、それを繰り返さざるを得ない。私は、作品に感覚の美しさのみ溢^ホれさせる作家や、自己の時代の秩序を動かすべからざる批評すべからざるケン^エイだと意識しながら、自己を受動的な盲目的な逃亡的生活者と設定するような告白小説家に、そのまま同意することが出来ない。

③この二種の考え方の間にある隙間、それは相当に深い裂け目であって、現在の文学理論がそれをふさぎ満たすことが出来ずにいるものであるように私は感ずる。そして私は自分の考えで、その隙間を埋め、そこに別れ別れになつてい

る二つのもの、芸術作品の倫理性と技術性とを、一貫したものにしてみたい衝動を持っている。出来れば私は芸術作品における技術性と倫理性が元来、本質的に同一のものであると考えたいのである。

文学作品が倫理の問題、善と悪の判断にかかわりがあるということは、文学作品が直接に倫理の役に立つということではない。小説を中心とする物語系統の文学作品においては、物語の構造自体が芸術効果の実体だと思われやすい。しかし考えれば分かるように、物語の構造は、多くの場合、芸術的感興を呼ぶための手段の一部である。文学芸術の中にある物語の性格は、映画や演劇と共通する。だがそれは文学では言葉によって成り立つから、言葉が文学の根本要素であるように考えられ、言語芸術と言われることがある。しかし言語構造そのものの特殊性が強く芸の働きを左右するのは、詩歌などの韻文の文学芸術においてである。いまこの文章で問題になっている倫理性は、詩歌などに目立つて存在する言語構造とは、じかに関係しないように思われるかもしれない。だが言語構造が多く問題になる詩歌の韻律的な構造の部分ですら倫理と関係のあることは、音楽も美術も倫理に関係があるというのと似た意味で事実であり、否定できない。

文学作品の物語性について考えれば、それは、文学作品では、言葉、文字で表現される。その言葉の表現するものの実体は、人間生活においての喜びや悲しみ、利得や損害等、生をより善いものにしたいたいという願いに伴うYな考えや感覚である。それらの喜びや悲しみ、願いや恐れを組み合わせるために、物語という構造の中に、具合よく、それらの考えや感覚を配置して、作者が表現しようとする感興を作り出す。そのようなものとして物語の芸術は考えられる。

(伊藤整「芸の技術と倫理」より。一部改変)

【注】 ○マルクシズム——マルクス主義。

○ディレッタントイズム——趣味や道楽として芸術や学問を楽しむこと。

問一——線部ア～エのカタカナの部分と同じ漢字を用いるものを、次の中から

それぞれ一つずつ選びなさい。

1 ア 1 真情をトロする。

2 社運をトした大きな事業。

3 国のハントを広げる。

4 トタンの苦しみを味わう。

2 イ 1 レポートの期限がセツパクする。

2 セツジョクを果たす。

3 セツソクに事を運ぶ。

4 バンセツを汚す。

3 ウ 1 手紙の内容をケンエツする。

2 小遣いをケンヤクする。

3 大国にヒケンする経済力だ。

4 政治家にケンキンする。

4 エ 1 先人にイケイの念を抱く。

2 キュウイのある投手だ。

3 イギョウを達成する。

4 「イサイは改めてご連絡いたします。」

問二 空白部X・Yに入る最も適当な語句を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

5 X 1 漫然 2 憚然おぼぜん 3 公然 4 悄然しょうぜん

6 Y 1 反社会的 2 汎神論的 3 功利的 4 感傷的

問三 〓線部 a、d の中で他と品詞の異なるものはどれか。次の中から一つ選
びなさい。

- 7 1 a 2 b 3 c 4 d

問四 〓線部の本文中での意味として最も適当なものを、次の中から一つ選
びなさい。

- 8 1 多くの経験を積んで物事に習熟しているさま。
2 古い時代についての知識を多く有しているさま。
3 伝統的な手法で物事に対応するさま。
4 ずるがしこい方法で物事に対処するさま。

問五 〓線部①の理由として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

- 9 1 音楽には文学よりも芸術性が具体的な要素として存在するので、倫
理における抽象性は問題にならないと考えられているから。
2 文学や絵画にはわかりやすい表現が求められるが、論文として倫理
を論じる場合は具体性や現世的な判断を求められるから。
3 倫理を論ずるには説話的で具体的な要素が必要であるが、音楽には
それらの要素が少ないとされているから。
4 文学は善と悪とを判断の基準にするが、音楽は美や秩序を基準にし
て倫理を表現しようとするから。

問六 〓線部②の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

- 10 1 文学は技術や技巧的なものを基準に作品が作られるのではなく、具
体的な倫理性によって創作されるものとされるが、一方で音楽や絵
画を中心とした抽象的な芸術は作品の純粋さを基準に創作されるとい
うこと。
2 文学は社会や文明に対して批判的で倫理的な判断を下すことがある
とされるものの、別の側面ではそれらとは全く関わらない芸術的感興
のみを動機として創作され批評される場合もあるということ。
3 文学は自然主義のように封建社会の意識に対して批判的なモチーフ
で創作することもあれば、戦士的前衛的な作家に見られるように、職
人的反社会的作家たちと対立するようなモチーフで活動することもあ
るということ。
4 文学は創作においては社会や文明を批評し、自己告白においては批
判的な眼差しを向けるものが妥当であるとされ、文芸批評は作品が社
会や政治状況といかに関係し、どのように倫理性が描かれるのかとい
う基準で価値判断されるということ。

問七

——線部③の内容として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

11

- 1 文学には倫理性が必要であるという考え方と、技術性を有する必要があるという考え方のこと。
- 2 作家には職人的作家が必要であるという考え方と、戦士的前衛作家が必要であるという考え方のこと。
- 3 作家には知的作家が必要であるという考え方と、社会批評的作家が必要であるという考え方のこと。
- 4 文学には純粹な芸術性が必要であるという考え方と、率直な自己言及性が必要であるという考え方のこと。

問八

問題文の内容と合っているものを、次の中から二つ選びなさい。

12 13

- 1 職業的作家と戦士的前衛作家が同じように倫理的な立場で創作をすると、誰もが両者を同一視する恐れがある。
- 2 筆者は芸術作品において倫理性と技術性というものを別々のものではなく、本質的に同じものと見なしたいと考えている。
- 3 社会や政治の秩序に対して批判的に関わり、あるいは率直に自己告白を書いたからといって、必ずしも表現されたものが芸術としての文学作品になるとはかぎらない。
- 4 詩歌は言葉や文字によって成り立つ文学作品であるため、その表現に倫理性を含む必要はない。
- 5 音楽は芸術として極めて純粹であるため、文学よりも価値の高いものとして位置づけられている。
- 6 文学は正義や正確さよりも、うまく巧妙に書かれる必要があるという錯覚によって成立するものである。

II 次の問題文を読み、後の問いに答えなさい。

われわれを取り巻く市民社会の成立以来、おそらく今日以上に「関係性」という用語がひろく問いただされた時代は、かつて存在しなかっただろう。「関係性」(あるいは「つながり」という言葉は、それじたいとしては何のヘンテツもない——おもに人間どうしの——関係一般を意味する抽象名詞にほかならない。だが、前世紀から今世紀への変わり目を一つの転換として、これらの言葉がある独特な負荷とともに用いられる場面は、それまでとは比較にならないほどに増加した。言いかえれば、この約二〇年のあいだに、それまでただの抽象名詞にすぎなかった「関係性」という言葉は、一つの「概念」へと転じたのである。

それまで何気なく用いられていた言葉がある「概念」へと転じるのは、従来その内実を支えていた基本的な前提が崩れるときである。先にも述べた通り、「関係性」という言葉は、基本的にはわたしたち一人ひとりが他人との間に結ぶ関係を総体的に示すための抽象名詞にすぎない。しかしながら、かつて社会の中でバクゼンと共有されていた関係のありかたが崩れ、それが新たな——あるいは多種多様な——関係によって置きかえられるとき、ひとはその内実についてあらためて問うことを迫られる。

ここでは、おおよそ一九九五年から二〇一五年までの「関係性」の変容を、おもに三つの段階に分けて見ていくことにしたい。また、ここでは、今日の芸術がそのような関係性の変容といかなるしかたで関わっているのかという問題にも、可能なかぎり触れていくことにする。なお、これから記述する内容は、先進諸国に共通するグローバルな現象としても敷衍可能なものだが、さしあたりここで想定しているのは日本の状況である。

戦後の日本における地域共同体の変容については、都市化、郊外化、過疎化など、これまでもさまざまな角度からひろく論じられてきた。だが、とりわけ「平成の大合併」とよばれる政府主導の自治体再編事業によって、日本における地方自治のありかたは、この二〇年間で大きく変化した。現在の日本の市町村数は、合併特例法をはじめとする過去二〇年間の政策によって、おおよそ半数にまで減少している。近年、地域の「復興」や「活性化」をめぐる話題が耳目を集めるようになった背景には、何よりもこうした政治・経済的な状況が存在していると考えるだろう。

そのような状況と並行して次第にロテイ^ウしてきたのが、それまでもゆるやかに進行していた地域共同体における人々の関係性の変容である。つまり、組合や自治会といった小規模なものから、市町村のような比較的大きな共同体にいたるまで、従来どちらかと言えば強固な(Ⅱ X)なものとして存在していた地域共同体に対するイメージは、この約二〇年のあいだに顕著な変化を見せている。現在わたしたちが身を置いているのは、それまで確固たるものとして存在していた地域共同体の所与性がいったん揺らぎ、それが部分的にはあれ、ふたたび新たなものとして再構築されつつある段階である。

それは、より具体的に言えば次のようなことだ。すなわち、従来の地域共同体は、家族を中心とする共同体の延長線上に「あらかじめ」存在するものであり、それは俗に「地縁」とよばれる関係性によって固定されているのが常であった。しかしそれは、いくつかの複合的な要因によって生活環境の流動化が進んだ結果、今日の日本社会においてかならずしも所与のものではなくなっている。そして、先に見たような「大合併」の背景でもある地方のヒヘイ^エや過疎化といった問題に対して、地域の復興が再び強く唱えられているというのが、今日のわたしたちが身を置く状況である。

近年、芸術と地域の関わりがしばしば関心を集めるトピックとなっているのも、こうした大きな変化のなかで理解する必要があるだろう。二〇世紀後半にひろく見られた公立美術館やパブリックアートの乱立は、いまだ「地域」が所与のものとして存在していた時代の文化政策であった。だが、近年急速に数を増しつつある地方での芸術祭やアートプロジェクトは、いったんそのような所与性が失われた果てに、各々の地域に新たな関係性やつながりをもたらしため呼び水としての役割が期待されている。いわばここでは、観光客の増加をはじめとする短期的な経済効果のみならず、かつての地域共同体のありかたとは異なる新たな関係性を創出し、それを活性化するための一つの方策としての「芸術」が求められているのだと言えよう。

以上と相補的な現象として、グローバル資本主義とインターネットによる流動的な関係性が存在感を増してきたことも、この二〇年間の社会情勢を考えるうえで語り落とすことのできない変化だろう。一九九〇年代半ばより日本のインターネットユーザーは急増し、その後も通信環境の漸次的な進歩と改善が繰り返された結果、今日のわたしたちは——携帯電話回線を含めた——インターネット環境の全面化という状況下で生を営んでいる。

それが意味するのは、たんにわたしたちを取り囲む情報環境が変化したということにはとどまらない。先に見た地域共同体のヒエイや弱体化となかば相補的なかたちで、近年の日本社会はみずからの物理的な環境に大きく左右されることのない、無数の遠隔的な共同体をウェブ上に構築することになった。インターネット上のソーシャルネットワークワーキングサービスもまた、やはりそうした共同体のプラットフォームの一つである。それが家族や地域のような共同体と異なるのは、そこにアクセスする人々が、みずからの身体的、地理的な条件に拘束されることなく、新たな関係性のなかに身を置くことができるという点に

ある。このことが意味するのは、しばしばその成員間の関係が固定化されがちな従来の共同体とは異なる、無数の流動的な共同体が同時多発的に生じたということである。従来であれば物理的に接触可能な範囲をベースに構築されていた強固な関係性は、これらの情報技術の後押しによって、より手軽かつ遠隔的な関係性へと拡散していった。

今日の芸術実践において、一定の集団や共同体をつくり上げるタイプの作品が一つのスタンダードになりつつあるのも、やはりこうした社会的な趨勢と無縁ではないだろう。家族や地域共同体に支えられた関係性が失われ、高度な情報技術に支えられた流動的な関係性がそれに置きかえられていくなかで、人々の関係性の変容に注目する、あるいはみずから参加者と新たな関係性をつくり上げるタイプの作品が存在感を増してくるのは、ある意味で当然の帰結だからである。

よって、今日のわたしたちの日常を構成する関係性は、とりわけこの二〇年においてかつてなく多様化したと言えるだろう。先に見たような政治・経済・技術的な要因によって、Yに根ざしたかつての関係性とは異なる、より多様で流動的な関係性が、今やわたしたちの生を覆い尽くしつつあるのだ。

しかしそれは、わたしたちが他人とのあいだに結ぶ関係性が、今後さらさらに流動化しつづけるということの意味しない。先にも触れたように、現在の地域共同体は以前とは異なるしかたで再編され、芸術をはじめとするさまざまな要素を取り込みながら、また新たに再構築されつつある段階にある。他方、それを補完してきたインターネット上の共同体についても、それが今後さらに関係の流動化を促進するということは、昨今の状況を見るかぎりおよそ考えられない。今日のわたしたちが直面しているのは、みずから生まれ育った環境に

よって形成される関係性をインターネットが乗り越える、といった単純な図式ではなく、むしろ後者が前者の関係性を補完し、さらにそれを強固なものにしつつあるという事態だからである。

インターネットがもたらした関係の流動化は、実名をベースとするソーシャルネットワークサービスや、スマートフォンなどによるアプリケーションへの常時接続が一般的なものとなった現在、ふたたび固定化される方向へとむかっている。つまりそれは、しばしば「しがらみ」とよばれるような人間関係のワズラ^オわしさからの解放へとむかうどころか、むしろそのような関係に常時アクセスが可能——それゆえにしばしば「息苦しい」とすら言われる——関係の「再」固定化へとむかっているのだ。

(星野太『美学のプラクティス』より。一部改変)

問一——線部ア～オのカタカナの部分と同じ漢字を用いるものを、次の中から

それぞれ一つずつ選びなさい。

14 ア 1 監督がコウテツされる。

2 ガンコイツテツ

3 学問のテツリを究める。

4 あの人は一見テツメンピだ。

15 イ 1 トバクで財産を失う。

2 バクシユウの候

3 商隊がサバクを行く。

4 ジジョウジバク

16 ウ 1 現実を前にテイネンを抱く。

2 株式市場が活況をテイする。

3 相手の動きをテイサツする。

4 生産カテイを把握する。

17 エ 1 その言い方にはゴヘイがあった。

2 カヘイと物を交換する。

3 現代にはヘイソク感が漂う。

4 オウヘイな態度を取る。

18 オ 1 ボンノウを断ち切る。

2 ボンヨウな人間だ。

3 雑草がハンモする。

4 ハンで押したような日常。

問二 空白部 X・Y に入る最も適当な言葉を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

19 X 1 俯瞰的 2 横断的 3 可塑的 4 非流動的

Y 1 個人主義 2 功利主義

20 3 競争や淘汰 4 血縁や地縁

問三 ~~~~~線部の言葉の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

21 1 さらに展開して説明すること。

2 前提として理解すること。

3 正確に説明すること。

4 収斂しゅううれんさせること。

問四 || 線部 a ~ d の中で他と品詞の異なるものはどれか。次の中から一つ選びなさい。

22 1 a 2 b 3 c 4 d

問五 ———線部①の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

23 1 「関係性」という言葉を支えていた基盤が崩れ、抽象名詞としての

意味が成り立たなくなったため、新しい言葉が必要になっていったということ。

2 「関係性」は、基本的に個々人の関係性を総体的に示すための抽象名詞であったが、関係のありかたが揺らぎ、多種多様な関係へと変容していったということ。

3 「関係性」という言葉は本来抽象名詞で表されるべき言葉であるが、社会基盤が崩壊したことにより、使用が困難になっていったということ。

4 「関係性」という言葉は、抽象名詞として基本的に多種多様なものを含意していたが、社会の変化により、一義的な「関係性」を表す言葉に変化していったということ。

問六

24

線部②の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

- 1 都市化、郊外化、過疎化の各段階によって共同体の変容がもたらされ、それまでの共同体が有していた強固なつながりが薄れた結果、人間関係が希薄化してしまったということ。
- 2 家族や地域に根ざした関係性から、通信技術に支えられた流動的な関係性を経て、インターネットへの常時接続が一般化することによりふたたび関係性が固定化されるということ。
- 3 二〇世紀後半のパブリックアートの乱立により、地域につながりをもたらずような芸術のありかたが成りたたなくなつたため、インターネットを活用して話題作りをするタイプの作品が指向されるようになったこと。
- 4 地域を基盤とした関係性がインターネットを利用した多様で流動的な関係性となり、今後はさらに流動化が進んでいくことが予想されるということ。

問七

25

著者が——線部③のように考える理由として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

- 1 インターネットの発達によって芸術の所与性が失われたため、改めて地域共同体における芸術活動の創出が求められるようになったから。
- 2 芸術活動を通して失われた関係性を取り戻そうとする動きが活発になつてきているため。
- 3 身体的・地理的な条件に左右されない新たな芸術活動の場を持つことが可能になるのは言うまでもないことだから。
- 4 インターネットによって地域再編事業が促進された結果、芸術を地域共同体の中で実践する要求が高まつたため。

問八 問題文の内容と合っているものを、次の中から二つ選びなさい。

27 26

1 過去二〇年の間に市町村数が半減し人口の流動化が進んだことにより、地域の復興は時代遅れのものとなった。

2 過去二〇年の間にグローバル資本主義とインターネットによる流動的な関係性が存在感を増す一方、どの関係性にもつながることが出来ない孤立した人々を生み出すこととなった。

3 インターネットの発達はわたしたちの情報環境を変化させるのみならず、地域共同体の弱体化にも対応し得る形で、遠隔的な共同体の構築をもたらした。

4 「地域」が所与のものだった二〇世紀後半の文化政策のもと、公立美術館やパブリックアートが次々と生み出された。

5 政治・経済とは無関係に、通信技術の発達が流動的な関係性を再構築した。

6 インターネットの発達によって、人々は人間関係の「しがらみ」という感覚を抱くことがなくなった。

Ⅲ 次の問題文を読み、後の問いに答えなさい。

これも今は昔、丹後前司高階俊平といふ者ありけり。後には法師になりて、丹後入道とてぞありける。それが弟にて、司もなくある者ありけり。それが主のともに下りて、筑紫にありける程に、新しく渡りたりける唐人の、算いみじく置くありけり。それにぞあひて、「算置く事習はん」といひければ、初めは心にも入れで教へざりけるを、少し置かせて見て、「いみじく算置きつべかりけり。日本にありては何にかはせん。日本に算置く道、いとしもかしこから^aぬ所なり。われに具して唐に渡らんといはば、教へん」といひければ、「よくだに教へてその道にかしこくだにもなり^bなば、いはんにこそ随はめ。唐に渡りても、用ひられてだにあり^cべくは、いはんに随ひて唐にも具せられて行かん」などと、ことよくいひければ、それになん引かれて心に入れて教へる。

教ふるに随ひて、一事を聞きては十事も知るやうになりければ、唐人もいみじくめでて、「我が国に算置く者は多かれど、汝ばかりこの道に心得たる者はなきなり。必ず^①我に具して唐へ渡れ」といひければ、「さらなり^A。いはんに随はん」といひるけり。「この算の道には、病する人を置きやむる術もあり。また病せねども、憎し、妬しと思ふ者を立ち所に置き殺す術などあるも、さらに惜しみ隠さじ、ねんごろに伝へんとす。たしかに我に具せんといふ誓言立てよ」といひければ、まほには立てず少しは立てなどしければ、「なほ人殺す術をば、唐へ渡らん舟の中にて伝へん」とて、異事どもをばよく教へたりけれども、その一事をば控へて教へざりけり。

かかる程に、よく習ひ伝へてけり。それに、にはかに主の事ありて上りければ、その供に上りけるを、唐人聞きて留めけれども、「いかで年ごろの君の、

かかる事ありてにはかに上り給はん、送りせではあらん。思ひ知り給へ。約束をは違ふまじきぞ」などすかしければ、げにと唐人思ひて、「さは、必ず帰りに来よ。今日明日にても唐へ帰らんと思ふに、君の来たらんを待ちつけて渡らん」といひければ、その契りを深くして京に上りにけり。世の中のすさまじきままには、「やをら唐にや渡りなまし」と思ひけれども、京に上りにければ、親しき人々にいひとどめられて、俊平入道など聞きて制しとどめければ、筑紫へだにえ行かずなりにけり。

〔宇治拾遺物語〕より。一部改変

【注】○算——算とは、算木という小さな棒を置いて占ったり病気を治したり呪つたりする術。算を置くとは、算木を置いて占うこと。

問一 〰線部A～Eの解釈として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つ

ずつ選びなさい。

28 A 1 言うまでもないことです

2 すべてをお任せします

3 思いがけないことです

4 改めてお願いします

29 B 1 心を許すままに

2 手取り足取り

3 ここ数年で

4 少しずつ

30 C 1 しつかりとは

2 多くは

3 すぐには

4 まったく

31 D 1 約束を破らないでしょう

2 約束を破ってはいけません

3 約束を破るつもりはありません

4 約束を破ることはできないでしょう

32 E 1 心の底から言ったので

2 必死の形相で言ったので

3 うまく丸め込んだので

4 切々と口にしたので

問二 〰線部X・Yの現在の地域名の組み合わせとして正しいものを、次の中

から一つ選びなさい。

33 1 X 奈良県南部 Y 中国地方

2 X 京都府北部 Y 九州地方

3 X 奈良県南部 Y 九州地方

4 X 京都府北部 Y 中国地方

問三 〰部a～dの中で他と種類の異なる助動詞を、次の中から一つ選

びなさい。

34 1 a 2 b 3 c 4 d

問四 〰線部ア・イの敬意の対象の組み合わせとして最も適当なものを、次の

中から一つ選びなさい。

35 1 ア主 イ主

2 ア唐人 イ唐人

3 ア主 イ唐人

4 ア唐人 イ主

問五 〰部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から一つ選

びな

36 1 「ず」は助動詞の終止形。「なり」は助動詞の連用形。

2 「ず」は助動詞の連用形。「なり」は助動詞の連用形。

3 「ず」は助動詞の終止形。「なり」は動詞の連用形。

4 「ず」は助動詞の連用形。「なり」は動詞の連用形。

問六 — 線部①のように発言した理由として最も適当なものを、次の中から

一つ選びなさい。

37

- 1 俊平の弟の算の才能に気づき、唐で途絶えそうな算術を受け継いでくれると思ったから。
- 2 俊平の弟の算の才能に惚れ込み、唐で学んだ成果を日本で発揮してくれると思ったから。
- 3 俊平の弟の算の才能に気づき、唐に渡る船の中で殺めるのが世のためだと思ったから。
- 4 俊平の弟の算の才能に惚れ込み、唐でその才能を開花させてやりたいたと思ったから。

問七

38

- 線部②の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。
- 1 夫婦関係がうまくいかないのです、すぐにでも唐に行きたいものだと考えたということ。
 - 2 生活が不如意であるため、唐に渡ってしまおうかと考えたということ。
 - 3 いくらこの世が荒んでいても、このまま唐に渡るわけにはいかないと考えたということ。
 - 4 生活の見通しが立たないので、もう少し余裕ができれば唐に渡ろうと考えたということ。

問八 問題文の内容と合っているものを、次の中から二つ選びなさい。

40 39

- 1 俊平の弟は、自ら志願して算を習い始めた。
- 2 俊平の弟は、仕えている主に随行するために京に上った。
- 3 俊平の弟が秘術を知りたがったので、唐人は偽の秘術を教えた。
- 4 俊平の弟は、唐人と約束を交わしていたために京に上らざるを得なかった。
- 5 唐人はすぐにでも唐に帰ろうと考えていたが、俊平が京に上ったために渡航を中止せざるを得なかった。
- 6 俊平の弟は、周りの人々に引き留められても唐に渡ろうとした。

問九

41

- 『宇治拾遺物語』と同様に鎌倉時代に成立したとされる説話集を、次の中から一つ選びなさい。
- 1 日本霊異記
 - 2 今昔物語集
 - 3 発心集
 - 4 雨月物語